

草津市の障害者福祉の動向

第1節 統計等による概況

1 障害者の数

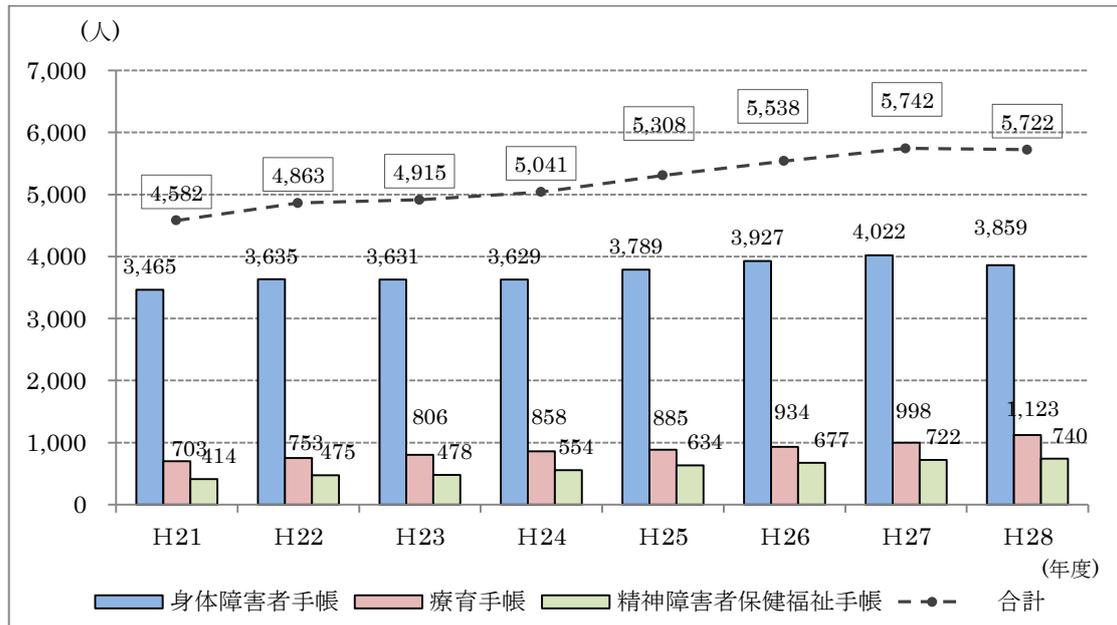
◆手帳所持者数と実在住者数

(単位：人 %)

年度	草津市の人口 A	障害者手帳所持者数 B(a+b+c)	対人口比 B/A	身体障害者手帳 a	比率 a/A	療育手帳 b	比率 b/A	精神障害者保健福祉手帳 c	比率 c/A
H21年度	121,084	4,582	3.78	3,465	2.86	703	0.58	414	0.34
H22年度	123,254	4,863	3.95	3,635	2.95	753	0.61	475	0.39
H23年度	124,624	4,915	3.94	3,631	2.91	806	0.65	478	0.38
H24年度	125,879	5,041	4.00	3,629	2.88	858	0.68	554	0.44
H25年度	127,610	5,308	4.16	3,789	2.97	885	0.69	634	0.50
H26年度	128,833	5,538	4.30	3,927	3.05	934	0.72	677	0.53
H27年度	130,485	5,742	4.40	4,022	3.08	998	0.76	722	0.55
H28年度	131,846	5,722	4.34	3,859	2.93	1,123	0.85	740	0.56

(各年度末現在)

資料：福祉行政報告例



※ 平成28年度は、住基上、死亡の者について職権で廃止処理をしましたので、身体障害者手帳所持者が減少しています。

草津市の障害者の総数は、5,722人であり、人口の4.34%に相当します。約23人に1人が障害者であり、身体障害者3,859人、知的障害者1,123人、精神障害者740人となります。障害者数はすべての障害種別において、概ね増加傾向となっています。

2 身体障害者の現状

① 障害等級別の身体障害者手帳所持者数の推移 (単位：人)

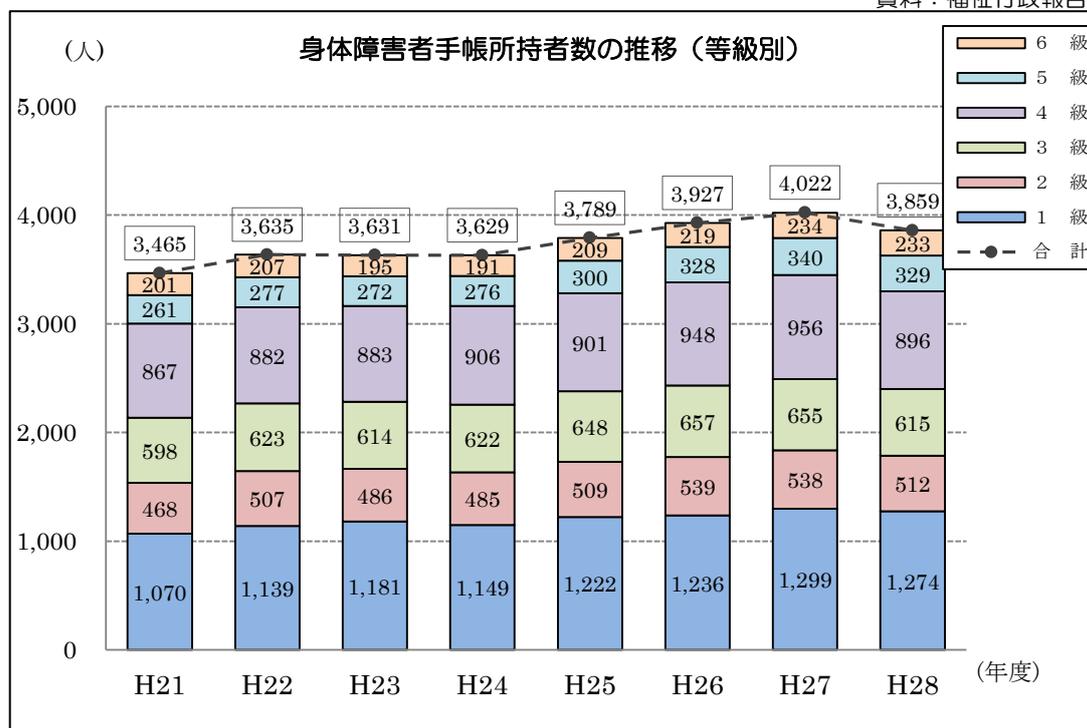
人数	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
1 級	1,082	1,070	1,139	1,181	1,149	1,222	1,236	1,299	1,274
2 級	492	468	507	486	485	509	539	538	512
3 級	587	598	623	614	622	648	657	655	615
4 級	836	867	882	883	906	901	948	956	896
5 級	249	261	277	272	276	300	328	340	329
6 級	204	201	207	195	191	209	219	234	233
合計	3,450	3,465	3,635	3,631	3,629	3,789	3,927	4,022	3,859

(単位：%)

割合	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
1 級	31.4	30.9	31.3	32.5	31.7	32.3	31.5	32.3	33.0
2 級	14.3	13.5	13.9	13.4	13.4	13.4	13.7	13.4	13.3
3 級	17.0	17.3	17.1	16.9	17.1	17.1	16.7	16.3	15.9
4 級	24.2	25.0	24.3	24.3	25.0	23.8	24.1	23.8	23.2
5 級	7.2	7.5	7.6	7.5	7.6	7.9	8.4	8.5	8.5
6 級	5.9	5.8	5.7	5.4	5.3	5.5	5.6	5.8	6.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1・2級の割合	45.6	44.4	45.3	45.9	45.0	45.7	45.2	45.7	46.3

(各年度末現在)

資料：福祉行政報告例



身体障害者は増加傾向ですが、平成28年度は台帳を整理したため減少しています。平成28年度では、身体障害者数全体の約46%（1,786人）が手帳1級・2級の重度障害者です。ここ数年は5、6級の軽度の方の手帳取得が進んでいます。

②障害部位別の身体障害者手帳所持者数の推移

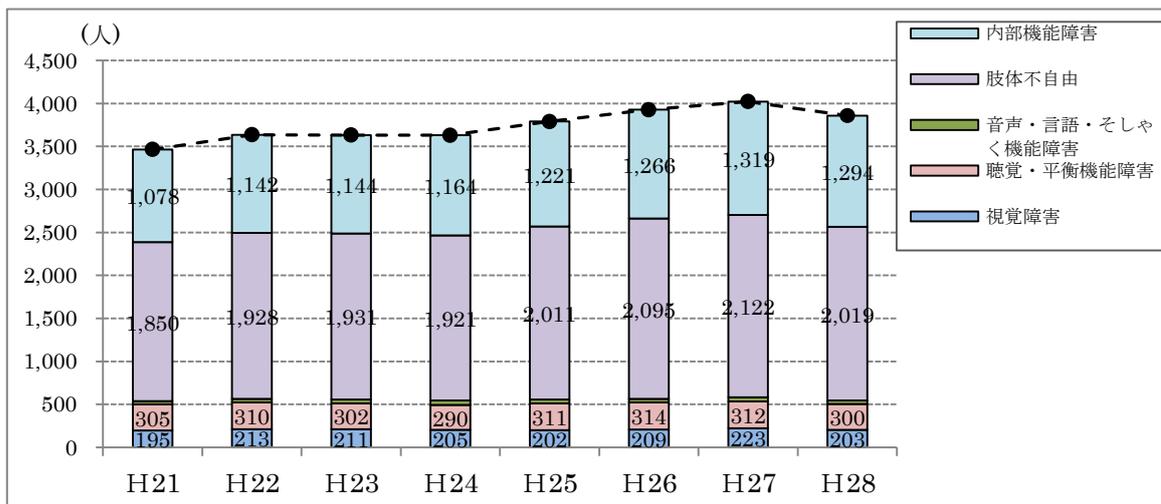
(単位：人)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
視覚障害	195	213	211	205	202	209	223	203
聴覚・平衡機能障害	305	310	302	290	311	314	312	300
音声・言語・そしゃく機能障害	37	42	43	49	44	43	46	43
肢体不自由	1,850	1,928	1,931	1,921	2,011	2,095	2,122	2,019
内部機能障害								
心臓障害	629	653	657	663	690	711	736	718
じん臓障害	239	258	259	263	287	297	311	328
呼吸器障害	57	59	53	56	65	65	71	65
膀胱・直腸・免疫不全	153	160	166	173	168	180	187	170
肝臓障害(※1)		12	9	9	11	13	14	13
内部機能障害 小計	1,078	1,142	1,144	1,164	1,221	1,266	1,319	1,294
合計	3,465	3,635	3,631	3,629	3,789	3,927	4,022	3,859

(単位：%)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
視覚障害	5.6	5.9	5.8	5.6	5.3	5.3	5.5	5.3
聴覚・平衡機能障害	8.8	8.5	8.3	8.0	8.2	8.0	7.8	7.8
音声・言語・そしゃく機能障害	1.1	1.2	1.2	1.4	1.2	1.1	1.1	1.1
肢体不自由	53.4	53.0	53.2	52.9	53.1	53.3	52.8	52.3
内部機能障害								
心臓障害	18.2	18.0	18.1	18.3	18.2	18.1	18.3	18.6
じん臓障害	6.9	7.1	7.1	7.2	7.6	7.6	7.7	8.5
呼吸器障害	1.6	1.6	1.5	1.5	1.7	1.7	1.8	1.7
膀胱・直腸・免疫不全	4.4	4.4	4.6	4.8	4.4	4.6	4.6	4.4
肝臓障害(※1)		0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3
内部機能障害 小計	31.1	31.4	31.5	32.1	32.2	32.2	32.8	33.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(各年度末現在)



※ 肝臓の機能障害により日常生活活動が制限される方が、平成22年4月から新たに身体障害者手帳の交付対象となりました。

平成28年度では、車いすや歩行器使用者等の肢体不自由が2,019人(52.3%)、内部機能障害のうちペースメーカーなどの心臓機能障害が718人(18.6%)、人工透析などの腎臓機能障害328人(8.5%)と続きます。内部機能障害の占める割合が増加しています。

3 知的障害者の現状

◆総合判定別の療育手帳所持者数の推移

(単位：人)

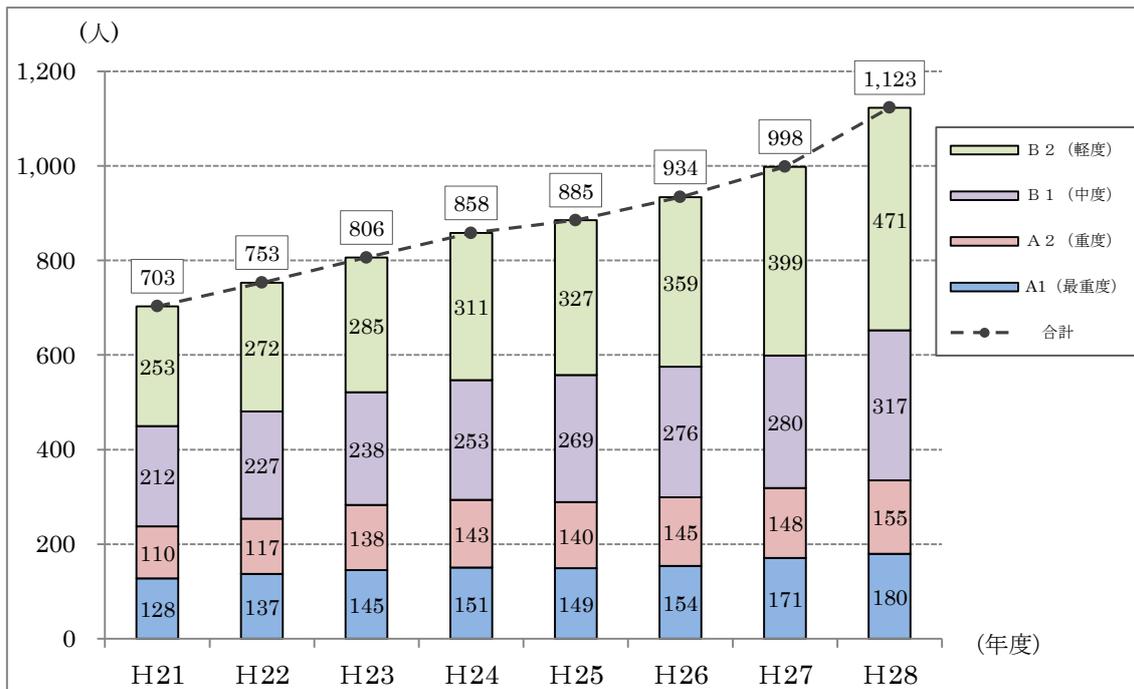
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
A1 (最重度)	128	137	145	151	149	154	171	180
A2 (重度)	110	117	138	143	140	145	148	155
B1 (中度)	212	227	238	253	269	276	280	317
B2 (軽度)	253	272	285	311	327	359	399	471
合計	703	753	806	858	885	934	998	1,123
前年度増加率	1.05	1.07	1.07	1.06	1.03	1.06	1.07	1.13

(単位：%)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
A1 (最重度)	18.2	18.2	18.0	17.6	16.8	16.5	17.1	16.0
A2 (重度)	15.6	15.5	17.1	16.7	15.8	15.5	14.8	13.8
B1 (中度)	30.2	30.1	29.5	29.5	30.4	29.6	28.1	28.2
B2 (軽度)	36.0	36.1	35.4	36.2	36.9	38.4	40.0	41.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(各年度末現在)

資料：福祉行政報告例



知的障害者は増加傾向となっています。平成28年度では、全体の約30%（335人）が手帳A1・A2の重度障害者となっています。特に軽度（B2）は、本人、周囲ともに障害に気づかないまま社会生活を営んでいるケースが多いといわれていますが、周知啓発や関係機関等において支援につなげる取り組みが進んでいるため、増加傾向になっているものと思われます。

4 精神障害者の現状

◆等級別の精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

(単位：人)

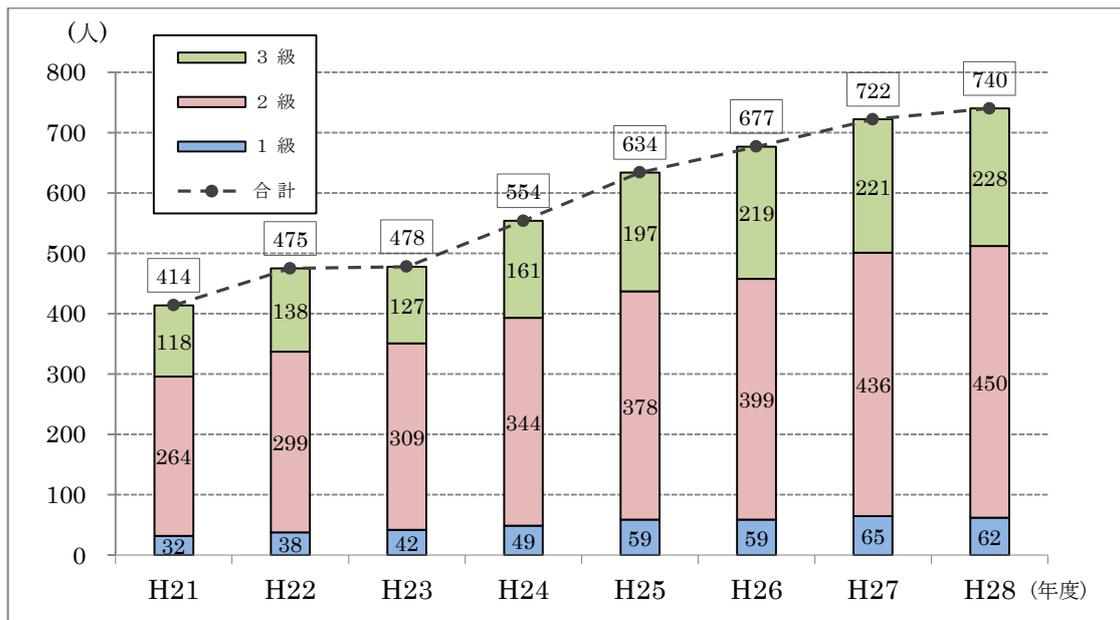
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
1 級	32	38	42	49	59	59	65	62
2 級	264	299	309	344	378	399	436	450
3 級	118	138	127	161	197	219	221	228
合計	414	475	478	554	634	677	722	740
前年度増加率	1.13	1.15	1.01	1.16	1.14	1.07	1.07	1.02

(単位：%)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
1 級	7.7	8.0	8.8	8.8	9.3	8.7	9.0	8.4
2 級	63.8	62.9	64.6	62.1	59.6	58.9	60.4	60.8
3 級	28.5	29.1	26.6	29.1	31.1	32.3	30.6	30.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(各年度末現在)

資料：障害福祉課調べ



精神障害者は増加傾向となっています。平成28年度では、全体の約69.2%（512人）が手帳1級・2級の重度障害者となっています。近年は、中度から軽度の精神障害者が増加傾向となっています。

5 年齢階層別手帳所持者数

①身体障害者手帳所持者数（年齢階層別）

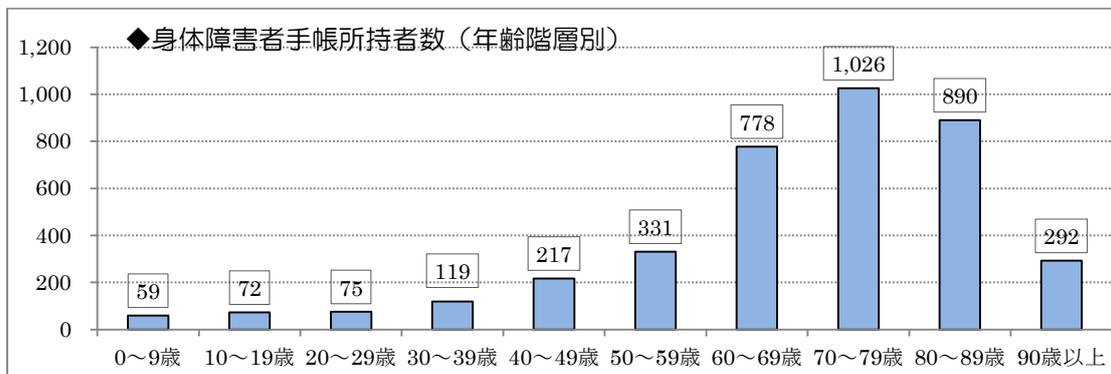
（単位：人）

区分	等級別						計	※障害部位別				
	1級	2級	3級	4級	5級	6級		視覚	聴/平	音言そ	肢体	内部
0～9歳	33	8	7	9	0	2	59	3	5	0	33	18
10～19歳	35	13	12	10	1	1	72	3	10	1	46	12
20～29歳	34	16	8	10	3	4	75	3	7	3	42	20
30～39歳	47	26	13	16	9	8	119	4	19	4	54	38
40～49歳	68	44	31	32	28	14	217	16	20	2	127	52
50～59歳	105	56	51	65	33	21	331	17	29	4	184	97
60～69歳	268	91	116	187	71	45	778	46	31	8	420	273
70～79歳	339	117	168	248	88	66	1,026	43	58	14	514	397
80～89歳	267	99	157	239	74	54	890	52	78	7	451	302
90歳以上	78	42	52	80	22	18	292	16	43	0	148	85
合計	1,274	512	615	896	329	233	3,859	203	300	43	2,019	1,294
うち60歳未満	322	163	122	142	74	50	873	46	90	14	486	237
うち60歳以上	952	349	493	754	255	183	2,986	157	210	29	1,533	1,057
60歳未満	25.3%	31.8%	19.8%	15.8%	22.5%	21.5%	22.6%	22.7%	30.0%	32.6%	24.1%	18.3%
60歳以上	74.7%	68.2%	80.2%	84.2%	77.5%	78.5%	77.4%	77.3%	70.0%	67.4%	75.9%	81.7%

資料：福祉行政報告例・障害福祉課調べ

※ 障害部位について、「視覚」は視覚障害、「聴/平」は聴覚・平衡機能障害、「音言そ」は音声・言語・そしゃく機能障害、「肢体」は肢体不自由、「内部」は内部機能障害をそれぞれ表します。

また、集計にあたり各種障害部位を併せ持つ（重複している）方については、代表的な障害部位で計上しています。



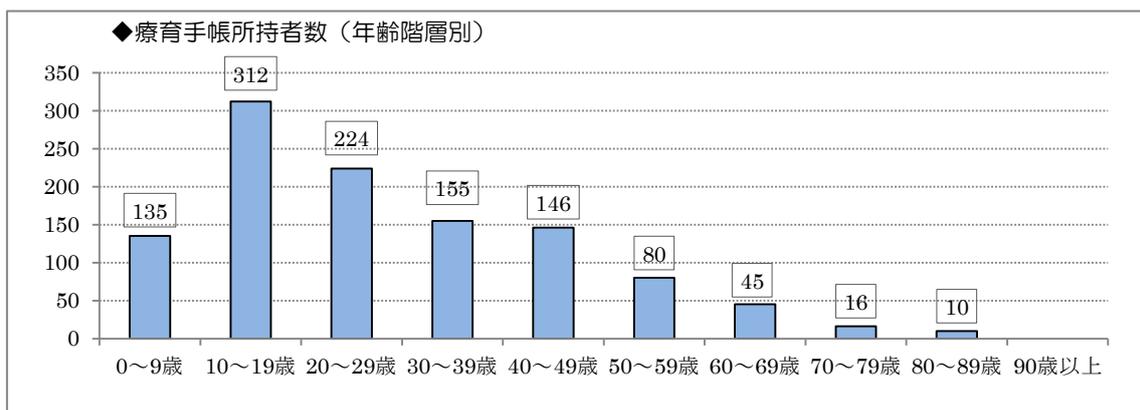
60歳以上が全体の77.4%（2,986人）を占めており、障害者の加齢や加齢に伴う手帳取得が進んでいます。20歳未満では、平成26年度131人、平成27年度132人、平成28年度131人と推移しており、早期療育等の取り組みのなかで若年層の手帳取得が進んでいるものと思われます。

②療育手帳所持者数（年齢階層別）

（単位：人）

区分	A 1	A 2	B 1	B 2	計
0～9歳	23	20	29	63	135
10～19歳	42	38	79	153	312
20～29歳	37	32	70	85	224
30～39歳	30	25	45	55	155
40～49歳	23	19	47	57	146
50～59歳	13	11	25	31	80
60～69歳	6	5	15	19	45
70～79歳	4	3	4	5	16
80～89歳	2	2	3	3	10
90歳以上	0	0	0	0	0
合計	180	155	317	471	1,123

資料：福祉行政報告例・障害福祉課調べ



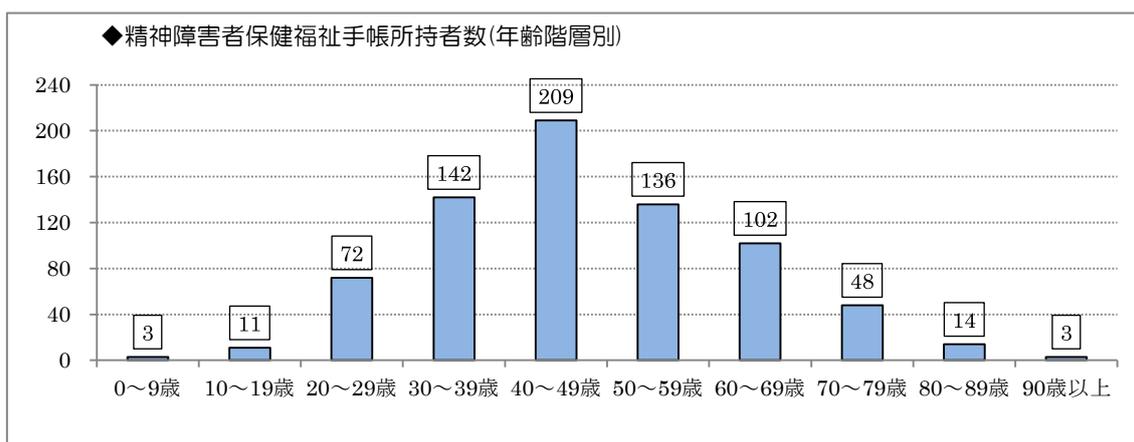
20歳未満が全体の約40%（447人）を占めています。20歳未満では、平成26年度403人、平成27年度428人、平成28年度447人と推移しており、早期療育等の取り組みのなかで若年層の手帳取得が進んでいるものと思われます。10～19歳で特に多い理由は、就職活動などにおいて手帳の利用ニーズが高まることが一因だと思われます。

③精神障害者保健福祉手帳所持者数（年齢階層別）

（単位：人）

区分	1級	2級	3級	計
0～9歳	0	2	1	3
10～19歳	0	6	5	11
20～29歳	1	34	37	72
30～39歳	5	92	45	142
40～49歳	11	132	66	209
50～59歳	10	80	46	136
60～69歳	19	60	23	102
70～79歳	11	32	5	48
80～89歳	4	10	0	14
90歳以上	1	2	0	3
合計	62	450	228	740

資料：障害福祉課調べ



40歳以上が全体の約70%（512人）を占めています。特に40代の数が顕著となっております。40歳以上の手帳所持者は、滋賀県の推移と概ね連動しています。

6 障害程度区分の認定

◆障害程度区分認定者数の推移

(単位：人)

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
区分1	83	89	70	72	71	53	32
身体障害者	5	6	4	6	4	6	2
知的障害者	33	33	28	26	29	23	17
精神障害者	45	50	38	40	38	24	13
区分2	142	125	109	95	105	134	137
身体障害者	30	23	13	11	10	15	15
知的障害者	74	76	69	60	61	68	61
精神障害者	38	26	27	24	34	51	61
区分3	94	91	85	81	83	73	81
身体障害者	13	12	16	17	19	18	15
知的障害者	58	59	52	48	49	45	52
精神障害者	23	20	17	16	15	10	14
区分4	71	64	51	48	63	62	63
身体障害者	8	9	7	7	9	17	11
知的障害者	52	49	39	37	47	39	42
精神障害者	11	6	5	4	7	6	10
区分5	54	61	60	57	60	66	60
身体障害者	13	15	12	9	13	24	15
知的障害者	40	44	46	46	45	41	43
精神障害者	1	2	2	2	2	1	2
区分6	68	70	71	75	87	104	117
身体障害者	24	24	23	24	26	29	31
知的障害者	44	46	48	51	61	74	85
精神障害者	0	0	0	0	0	1	1
合計	512	500	446	428	469	492	490
身体障害者	93	89	75	74	81	109	89
知的障害者	301	307	282	268	292	290	300
精神障害者	118	104	89	86	96	93	101
割合	100	100	100	100	100	100	100
身体障害者	18.16	17.80	16.82	17.29	17.27	22.15	18.16
知的障害者	58.79	61.40	63.23	62.62	62.26	58.94	61.22
精神障害者	23.05	20.80	19.96	20.09	20.47	18.90	20.61

(各年度末現在)

資料：障害福祉課調べ

※ 障害程度区分の認定は18才以上の障害のある人を対象としています。

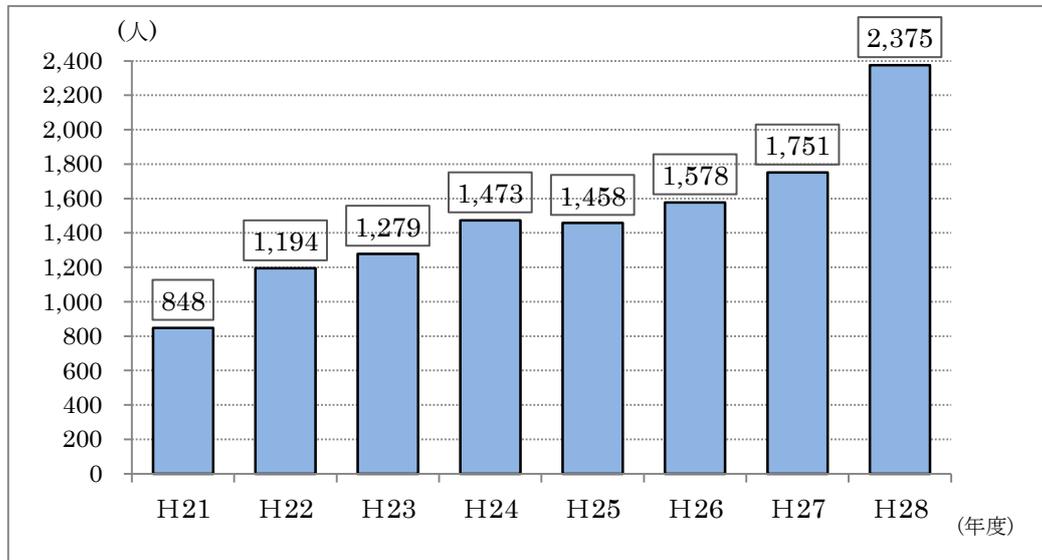
※ 障害程度区分は、平成26年4月から障害支援区分に改められました。

知的障害者の割合が増加しています。区分5、6の重度の認定が増えてきている一方で、区分1の認定は減っています。障害支援区分に変更されてからは、障害程度区分の時よりも高く認定される傾向が伺えます。

7 医療・保健の概況

①自立支援医療

◆更生医療

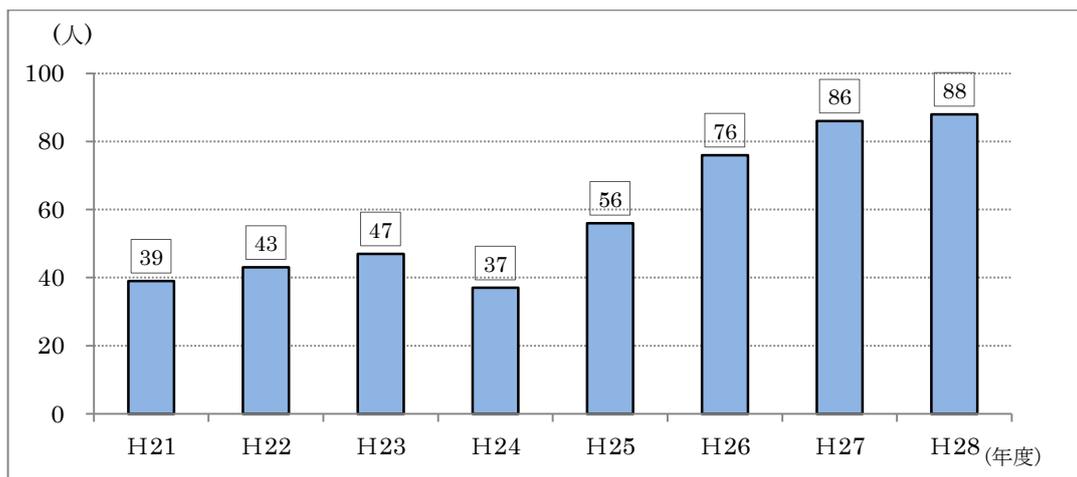


(各年度末現在)

資料：福祉行政報告例

加齢等に伴う身体障害者数の増加により、利用者が増えています。人工透析、ペースメーカー埋め込み術、人工関節施行術などが該当しますが、特に人工透析は腎臓機能障害者の増加により、対象となる方が増えています。

◆育成医療

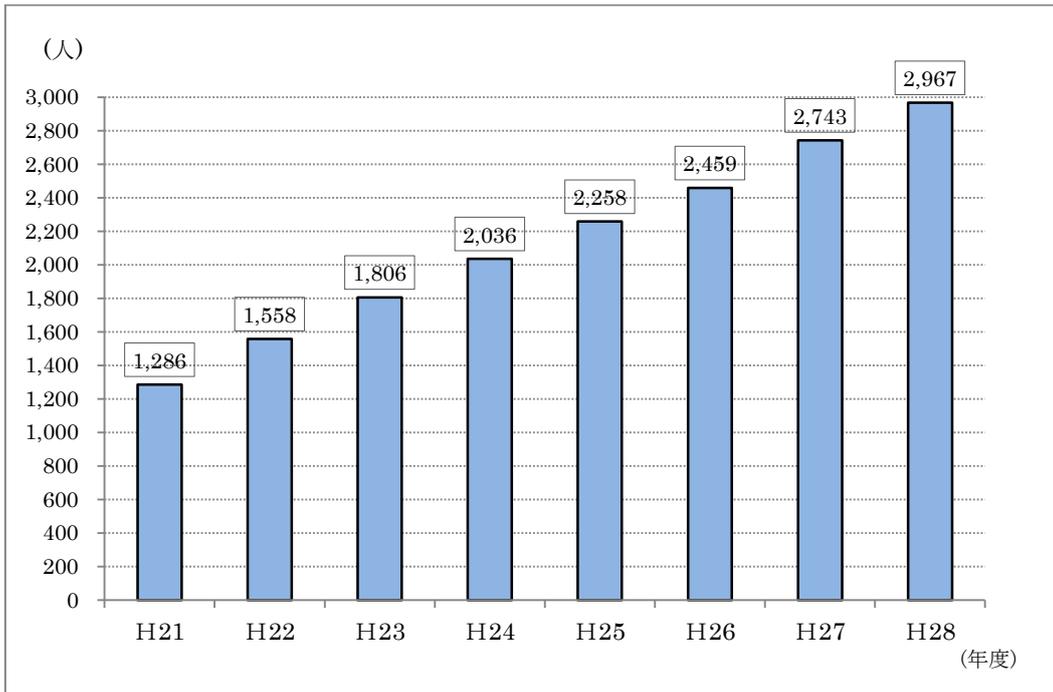


(各年度末現在)

資料：福祉行政報告例

制度の普及により利用者が増えています。心臓手術、歯科矯正などが該当します。

◆精神通院医療



(各年度末現在)
資料：障害福祉課調べ

精神科に継続通院している人の数が著しく増加しています。毎年240人程度増加しており、平成28年度は、2,967人となっています。

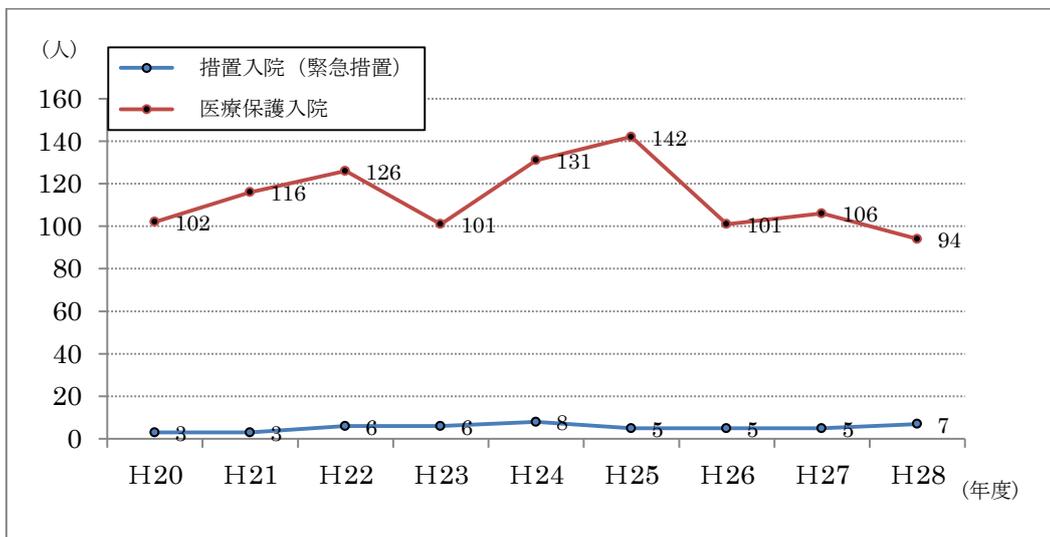
②精神保健対策

■入院患者数の推移

(単位：人)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
措置入院(緊急措置)	3	3	6	6	8	5	5	5	7
医療保護入院	102	116	126	101	131	142	101	106	94

(各年度末現在)
資料：草津保健所



第2節 障害等のある幼児・児童・生徒の推移等

1 就学前児童の状況

①保育所、認定こども園（保育認定）における障害児保育

(単位：園 人 %)

項目		年度								
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
公立	園数	6	6	6	6	6	6	6	7	7
	園児 人	588	620	643	635	628	619	633	663	686
	加配対象園児 人	44	39	35	31	42	45	42	41	43
	対比 %	7.5	6.3	5.4	4.9	6.7	7.3	6.6	6.2	6.3
私立	園数	12	12	12	13	13	13	13	16	17
	園児 人	1,648	1,709	1,754	1,917	2,071	2,135	2,221	2,425	2,694
	加配対象園児 人	44	42	47	49	57	52	47	40	51
	対比 %	2.7	2.5	2.7	2.6	2.8	2.4	2.1	1.6	1.9
合計	園数	18	18	18	19	19	19	19	23	24
	園児 人	2,236	2,329	2,397	2,552	2,699	2,754	2,854	3,088	3,380
	加配対象園児 人	88	81	82	80	99	97	89	81	94
	対比 %	3.9	3.5	3.4	3.1	3.7	3.5	3.1	2.6	2.8

(各年5月1日現在)

資料：幼児課

※ 平成28年度から認定こども園の園数（公立2園、私立1園）を計上しています。ただし、認定こども園の園児数については保育認定を上記の障害児保育で、教育認定を下記の障害児教育で計上しています。

②公立幼稚園、認定こども園（教育認定）における障害児教育

(単位：園 人 %)

項目		年度								
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
園児 人		785	776	790	793	725	778	775	818	818
加配対象園児 人		37	39	32	32	40	45	54	57	53
対比 %		4.7	5.0	4.1	4.0	5.5	5.8	7.0	7.0	6.5

(各年5月1日現在)

資料：幼児課

保育所、保育認定の認定こども園の加配対象児については、平成29年度は94人であり、約36人に1人の割合となっています。公立幼稚園、教育認定の認定こども園の加配対象児については、平成29年度は53人であり、約15人に1人の割合となっています。

2 学校教育の状況

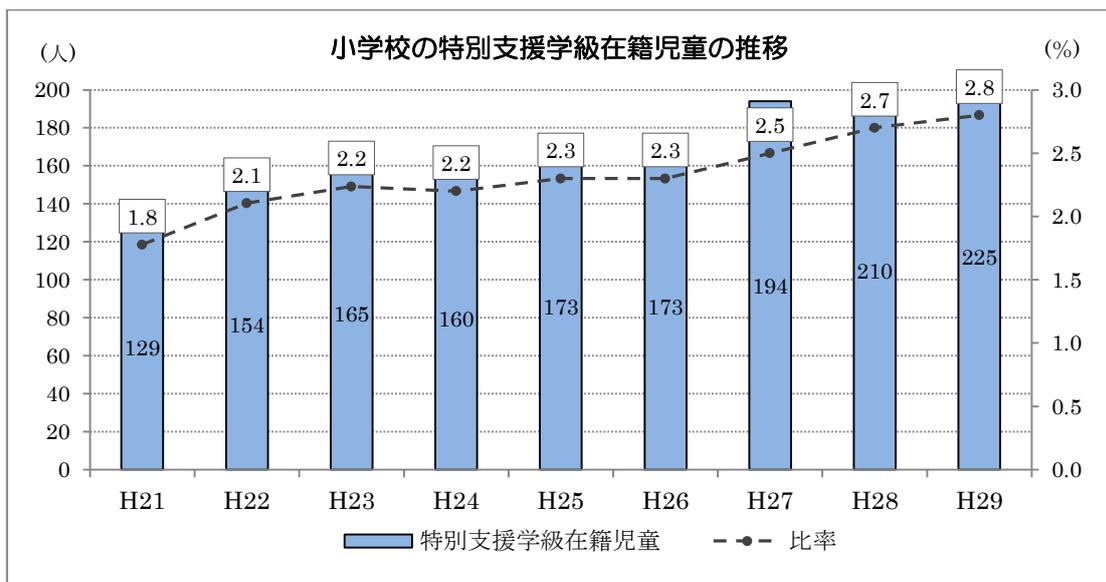
①公立小学校の特別支援教育

(単位：CL 人 %)

項目	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
		実学級	CL	266	270	277	280	289	295	304
特別支援学級	CL	34	39	41	40	42	45	47	50	52
児童	人	7,259	7,317	7,378	7,365	7,495	7,567	7,715	7,818	7,964
普通学級在籍児童	人	7,130	7,163	7,213	7,205	7,322	7,394	7,521	7,608	7,739
特別支援学級在籍児童	人	129	154	165	160	173	173	194	210	225
対比	%	1.8	2.1	2.2	2.2	2.3	2.3	2.5	2.7	2.8

(各年5月1日現在)

資料：学校教育課



特別支援学級在籍児童については、年々増加傾向にあります。平成29年度は225人であり、約35人に1人の割合となっています。

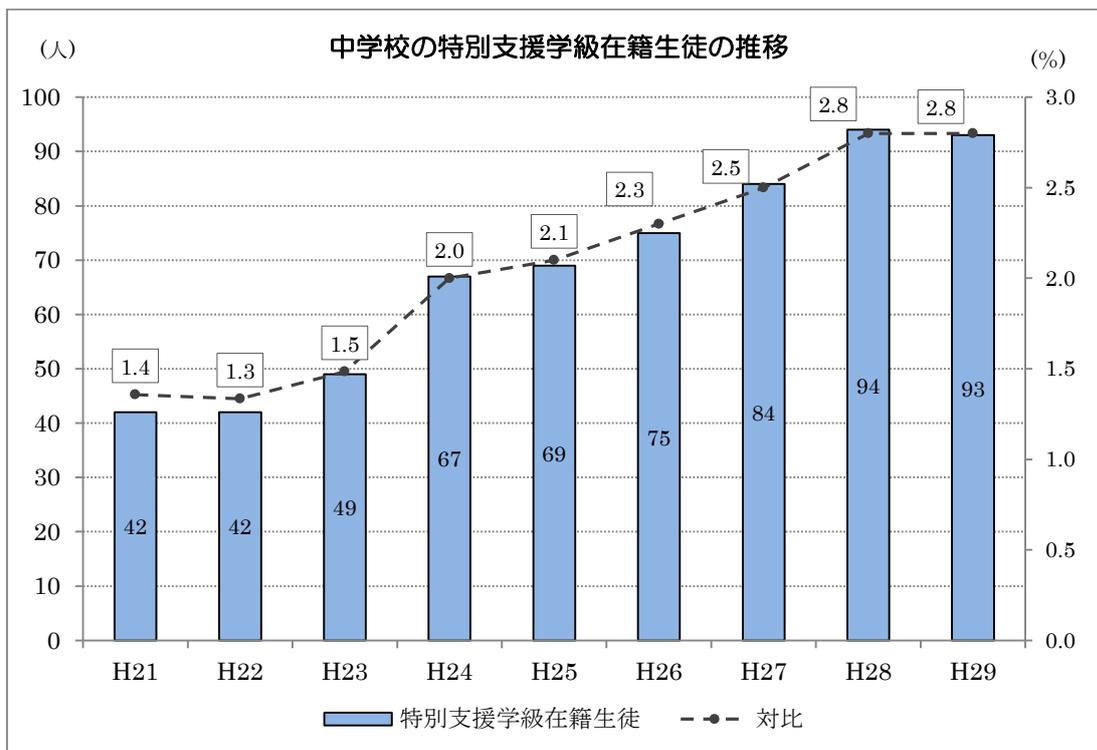
②公立中学校の特別支援教育

(単位：CL 人 %)

項目	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
実学級	CL	103	104	106	111	120	122	118	123	122
特別支援学級	CL	16	15	14	20	20	22	18	21	19
生徒	人	3,094	3,148	3,301	3,278	3,298	3,266	3,317	3,341	3,380
特別支援学級在籍生徒	人	42	42	49	67	69	75	84	94	93
対比	%	1.4	1.3	1.5	2.0	2.1	2.3	2.5	2.8	2.8

(各年5月1日現在)

資料：学校教育課

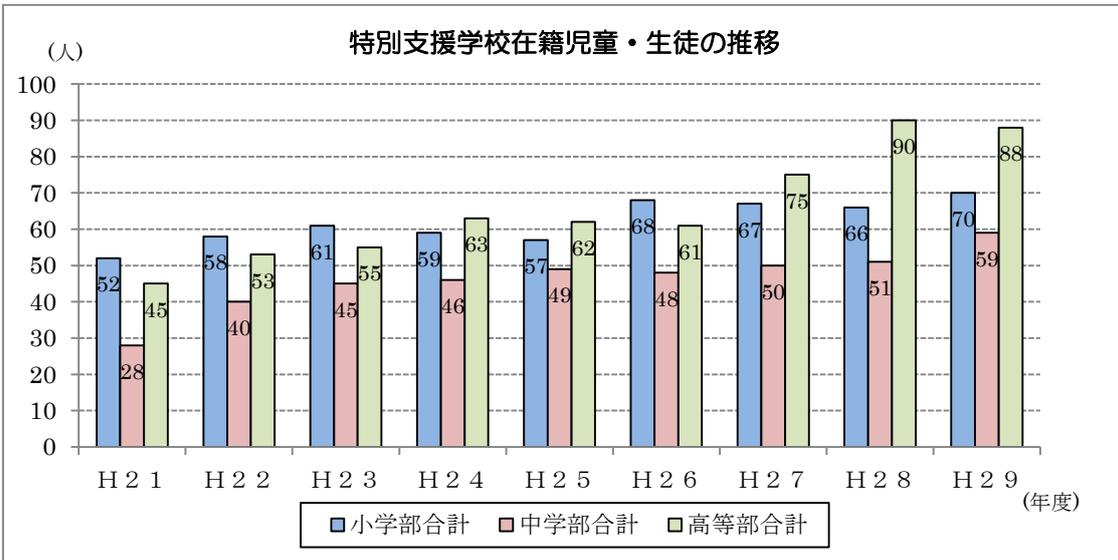


特別支援学級在籍生徒については、年々増加傾向にあります。平成29年度は93人であり、約36人に1人の割合となっています。

3 特別支援学校の児童・生徒

(単位 人)

区分	学校	年度								
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
小学部	滋賀県立盲学校	0	1	0	0	0	1	1	1	1
	滋賀県立聾話学校	3	4	6	6	6	5	3	4	2
	滋賀県立草津養護学校	49	53	55	53	51	62	62	61	67
	滋賀県立三雲養護学校							1	0	0
	合計	52	58	61	59	57	68	67	66	70
中学部	滋賀県立盲学校	1	3	2	2	0	0	0	0	0
	滋賀県立聾話学校	1	0	0	0	1	2	3	2	1
	滋賀県立草津養護学校	26	37	43	44	48	46	44	46	57
	滋賀県立三雲養護学校							3	3	1
	合計	28	40	45	46	49	48	50	51	59
高等部	滋賀県立盲学校	1	0	2	2	2	1	2	0	1
	滋賀県立聾話学校	1	2	2	1	0	0	0	1	2
	滋賀県立草津養護学校	39	43	43	53	55	55	57	66	60
	滋賀県立甲南高等養護学校	4	8	7	6	4	5	4	3	4
	滋賀県立三雲養護学校							10	14	12
	滋賀大学附属特別支援学校	0	0	1	1	1	0	2	6	9
	合計	45	53	55	63	62	61	75	90	88



特別支援学校在籍児童・生徒については、年々増加傾向にあります。特に、草津養護学校中学部の在籍児童・生徒数の増加が著しい状況です。三雲養護学校については、昨年度の審議会での意見を踏まえ、過去3年分について記載しています。